

□ 埼玉県農業大学校跡地が工業系ゾーンに
埼玉県農業大学校跡地から運動公園につながる樹林地は、鶴ヶ島市のなかでもまとまった緑の残る貴重なエリアです。

鶴ヶ島市の第5次総合計画基本構想の土地利用構想で、自然と産業とが調和する「自然と賑わいの協調ゾーン」になっていました。

しかし、平成27年12月議会に提案があり、埼玉県農業大学校跡地およそ40畝を「工業系ゾーン」へと変更しました。

□ 見えてこない構想
これまで市は、企業誘致による雇用の創出と、自然環境を生かした活用を重要な政策としてきましたが、県の土地であることからなかなか具体的な構想は見えていませんでした。

□ 市民の意見は
農業大学校の跡地利用については、平成21年7月に環境団体が埼玉県に「存続・活用」について意見書を提出。

また、平成22年9月には「圏央鶴ヶ島IC周辺地域整備基本構想に係る戦略的環境影響評価計画書」に対して、環境保全の視点から

の意見書も提出されています。

市は、環境を考える市民団体からの意見提言を反映した要望を、県に伝えてきたとの報告もされています。

□ 緑の連続性の担保は
これまでも私たちは、現在の緑をつなぎネットワーク化していくことが、生態系を守り、

環境を保全していくうえで必要不可欠であり、緑の連続性の観点からも農大跡地から運動公園までの一帯を総合的にとらえたまちづくりを進めるべきだと発言してきました。

新たな工業系ゾーンの説明文には、「農業大学校跡地は、現存する緑地や水辺に配慮しながら、工業系への土地利用転換を図ります。」と記されて

自然環境 に配慮を 農業大学校跡地 の今後は？

います。

□ 目標との整合性を

後期基本計画政策3「快適に暮らせるまち」の冒頭に描かれている公園、道路、排水などの生活環境の整備とともに、身近な自然環境を確保していく目標との整合性を確保すべきだと思います。

農大跡地と運動公園の周辺は、道路の整備も計画されています。鶴ヶ島の自然景観は、どこまで残していけるのでしょうか。



農業大学校構内
2014年4月20日撮影
写真提供：鶴ヶ島の自然を守る会

みんなの声と参加が まちをつくる！

私たちは、暮らしの中で気づいた課題を調査し学び合い、市政に提案しています。みなさんの声を、市民ネットワーク鶴ヶ島にお寄せください。

また、ネット通信を配布してくださる方を募集中です。

■ お問い合わせ ■

tsurunetorg@gmail.com